男と女と男と女と男と女と

神戸遊戯誌 45

昭和二十七年第七回国民体育大会バドミントン競技大会で優勝した親和女子高校チーム　左から関一子・西尾貞子・小笠原美津子　中島校旻(左)河合満氏(右)

バドミントン ①

青木重雄

★全国優勝の親和女子高チーム

バドミントンはハッキリ言って日本人の間では、スポーツ界に正式仲間入りしたのは戦後のことである。日本に移入されたのは戦前だが、本格的な試合などは行なわれなかった。つまり、大正十三、四年ごろ北米ＹＭＣＡから横浜、東京などのＹＭＣＡにバドミントンの道具が贈られてきたのが最初だったが、当時は別に複雑なルールやテクニックにとらわれず、ただ羽を打ち交わしておもしろがっていた程度のものであった。しかし、在留外人の間では、昭和四年ごろの春に横浜と神戸の両外人クラブの人々が、インターポート（各種競技のシーズン終わりの定期戦）にこの種目をも加えて対戦し、正規の試合が行なわれていた。

横浜ＹＭＣＡがこの競技を正式に取り入れたのは昭和十年ごろからだが、十二年にデンマーク体操学校でバドミントンを学んだ広田兼敏の帰国とともに、技術的な研究が本格的となり、競技化されるようになった。間もなく広田氏の尽力で横浜ＹＭＣＡが中心となり、古河電機コロムビア、ナルトスポーツの四チームにより神奈川県バドミントン協会がいち早く組織されて、やがて県内で各種の大会も開始されたが、同協会こそわが国での最初にしてただ一つの正式なバドミントン協会であった。この点、神戸の場合はいまひとつ戦前の明確な資料が不足だが昭和の初期に横浜などと似たかたちでバドミントンが紹介されていたことはまちがいないが、バドミントン協会が創立されるところまではゆかなかった。

バドミントンは一八四〇年代にインドのボンベイ州プーナ村の土民らが遊戯的にやっていたもので、そこへ行き合わせた英国の陸軍将校が本国へ紹介したものであ

る。それから三十年ほどした一八七三年に、ブーナクラブがはじめてイギリスのパス町に創立された。その後間もなく、グロセスターシャイアー県のバドミントン村で、村の人々がこの新しいゲームに打ち興ずるようになって、以来このゲームを「バドミントン」と称するようになった。これにともなって競技規則もしだいに改良を加えられるようになり、一八九五年に結成されたナショナル・バドミントン・アソシエーション（NBA）によって、今日の国際ルールができ上がった。今やこのゲームは、イギリスはもちろんのこと、北欧諸国、インド、タイ、南北アメリカ、マライ、カナダ、日本などほとんど全世界にわたって行なわれ、国際的に人種を問わず愛好されている。

テニスのボール代わりのバドミントンの羽はシャトル・コックと呼ばれ、インドでやっていたころから水鳥の羽だったが、現在でもほとんどの場合水鳥の羽が使用されている。いっときニワトリの羽が使われたこともあり東京の中学校などのように現在もプラスチック製を使っているところもあるが、共に例外に属する。羽一個は百二、三十円もするが、三十分間もゲームをつづけるとダメになるので、経費がかなりかかるほうだ。だから日本の羽子板の追い羽を連想すると、たかがバドミントン競技ぐらい……と思われがちだが、実際にやってみると意外に羽代が高くつく。その上、みかけ以上に心身の疲労も大きい。羽を落とせばしまいだから、たえず空間に全身をぶっつけて立ち向かわねばならないし、技量、体外以上に試合の展開が重要視されるのでヘッド・プレイが大いに要求されるわけだ。

さて、戦争のためせっかくの発展を中断された日本のバドミントン競技は戦後になって急速な発展をみせた。すなわち昭和二十一年夏、横浜ＹＭＣＡと慶大が早くも練習を始めたが、秋には海外引き揚げ者によって東京に初めてバドミントン・クラブが生まれる。同年十二月にはついに待望の日本バドミントン協会設立にこぎつけたそして二十三年十月に日本体育協会に正式加盟）が、この最初の協会役員十八名（会長・白山源三郎）のなかに常務理事として神戸在住の石渡俊一と山本孝二両人の名が見られる。二人は戦前バドミントンの日本紹介に共に功労のあった人たちである。二十二年には、六月に全関東のオープン選手権、秋には関東学生連盟結成を記念する大会が横浜で開催されたが、なんといっても五月に東京で開催された全日本選手権大会の誕生がめざましかった。二十三年以後は東京、横浜などでは各種の競技が行なわれるようになったが、同時にこのころから各地方のバドミントン熱も中央に劣らず盛んとなり、諸都市を中心に、県支部がつぎつぎと結成されるようになり、「バドミントンは日本におけるメイジャー・スポーツなり」との確信が裏付けられるようになったのもこのころであった。

兵庫県バドミントン協会が作られたのは二十五年だったが、同じころ神戸バドミントン協会も生まれて、神戸ＹＭＣＡを中心として活動を始めた。神戸市内には他にはまだコートらしいものが作られていなかったため、学生も一般人も実業団もみなＹＭＣＡへ練習に通った。その後いよいよ盛んとなったが、早くも優秀な選手を生み強さを発揮し出したのは、高校では親和女子高校、星陵高校、甲南高校、神戸商業、森高女、大学では甲南大、関学大、実業団では神戸地方裁判所、古河電工、大日本電線（尼崎）、三菱電機（伊丹）、冨士鉄、神戸鋳鉄、台湾製糖などだった。なかでも親和は二十七、八年ごろからスタートしたが、たちまち強くなり、岡山や善通寺などの全国大会に出場して活躍したが、仙台で開かれた国体では団体戦でみごとに全国優勝した。選手は西尾定子関一子、小笠原美津子の三人だった。三十二年度神戸での国体の一般女子にも西尾、加藤洋子らの親和クラブ・チームが出場して第三位となった。現在では女子では野田高校が強く、昨年県下で優勝して全国大会に出場した。

神戸うまいもん巡礼

No.57

赤尾兜子

西洋料理の巻

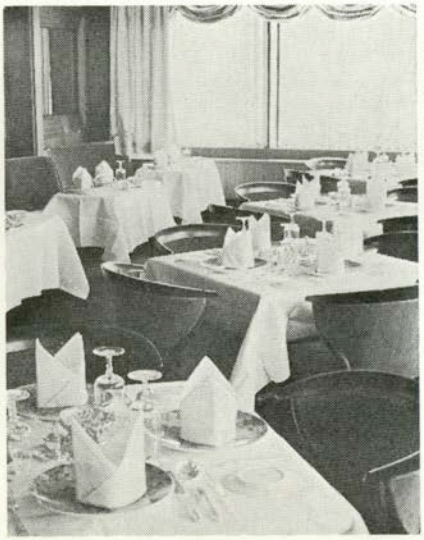
京阪神三都のなかで、特異な味覚地帯である神戸の将来に望みたいことのひとつとして、店の美装を、私は強くいったことがあった。戦後二十年を過ぎ、ようやくそのきざしが目につきだしたようである。もっと促進してほしいと思う。

ところで、その美装の手近かないい例として、このほど店を開いた「ブラン・ドウ・ブラン」(Blanc de Blanc 生田区京町筋、神栄ビル七階)をあげよう。

ブラン・ドウ・ブランとはフランス語で、白のなかの白という意味。良質のシャンペンをいうときに使うことばでもある。すなわちこの店は、フランス料理を主調にしたレストランであることがわかろう。

戦後派とはいえ、神戸の味覚界にいまやまったき座をしめた「北野クラブ」「コラル・キタノ」を経営する浅木トミ子さんの長男雄君がリヨン大学を終え、経営と料理をマスターして帰ったのを機会に、新開店へ踏みきったというしだいなのである。

店内のデザインに、ひどく神経がゆきとどいている。といって、あの新装開店にありがちなピカピカがなく、そういう神経をかくしてむしろ渋味がただようくらいにできているのが好ましい。入口に、大理石のダイアナの女像(十八、九世紀のものという)をおき、中心部は、六、七十人ほどのサロン。二方に高層の広い窓をとり、一方の壁に大鏡がいくつもはめこんであって、そこらに



写真右上は十八、九世紀のものといわれる大理石のダイアナの像
左下はサロン風のグリル

次頁上から
シャートブリアンステーキ4人前(¥6,000)
ビーフソテー・アラモード(¥500)
チキンパイ・アングレーズ(¥600)

フランス風のノーブルな表現が求められ、赤いじゅうたん、朱色のイス、そしてサービスのボーイたちの上着がブルー、家具類は別製、調和の苦心がうまい効果をあげている。

もうひとつ、フランスと切りはなせぬ葡萄を店のテーマにし、あらゆるところにそれを使い、食事するときの受皿が、葡萄の絵を焼いた和陶器、金細工のぶどうが灰皿のガラスをつつんでいるというぐあいに、その細心な遊びようは心にくいほどだ。

もともとフランス料理は、煮込み料理と多様なソースをその特徴とするが、ここには、パレスホテルの常務兼料理長、田中徳三郎さんの義弟で、戦前のオリエンタルホテルで腕をみがいた木村健蔵さんが司厨長をしていて、長年の経験を加味して、いい仕事をしているだけに味にくるいがない。

開店まもないが、舌ひらめのムニエル（バター焼、五〇〇円）舌ひらめのボンファム（白ブドー酒煮、五〇〇円）帆立貝のグラタン（五〇〇円）それにリヨン風仔牛骨つきステーキ（一〇〇〇円）シャート・ブリアンステーキ（一五〇〇円）などのほか、四季に応じて毎日内容がかわるスペシャル料理もあり、メニューを見て随意にえらべばいい。店歴とともにおいおい自慢料理が決まってくるであろう。

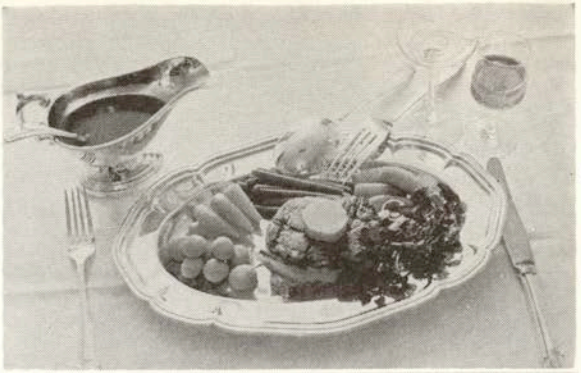
ともかく、美しい店の割に、客がよりつきにくくない程度の料理とフンイキを持ち、フランス風とはいえ、それをキザに押し売りしないで、はじめからかなり日本的に消化しているのに私は感心した。

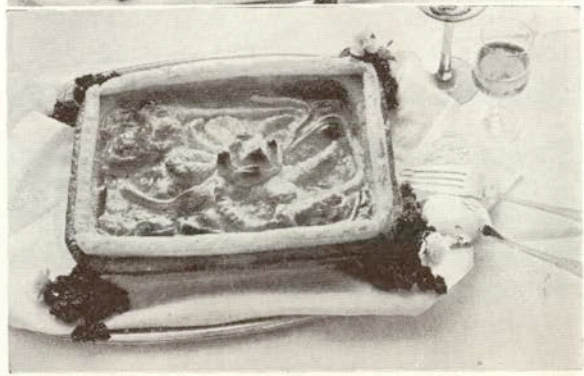
午前十一時から夜十一時までの営業。

サロンふうのグリルに隣して、バーがあり、この方はブルーの別製のイス。ボーイの上着はえんじ色。ゆったりとスペースがとってあり、ワイン党には好適。そのほか、カウンターの目の前で揚げる天ぷらコーナーと、三十人くらい入れる日本座敷の和食もある。天ぷら、和食は、むしろ外人にアッピールするために設けたものらしい。

北野クラブの姉妹店であり、店内のデザインは、この店のほうが、ずっと上位である。

神戸だけでなく、広く客層を求めたいらしいが、ともかく美しい店であることを重ねて推奨しておく。

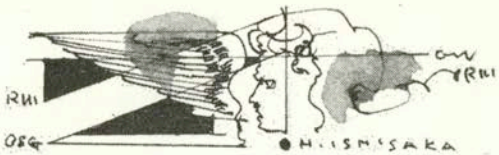




淑女入門 6
How to be a Lady

実益淑女

文——鴨居羊子
え——石阪春生



突如、ある日、ある女性から電話がかかってきた。「昔モデルをしていたP子よ。ぜひお話しがあるの」

先方が親しげにしゃべっているにしては、私の方には覚えがない。とにかく約束の日時に彼女がやってきた。私が応接室に入ってゆくと、もうそのときには彼女の四つ位の坊やが横で下手クソな絵を描いていた。

まだ私の方は思い出せないけれど、そういえば一度位モデルの仕事をたのんだこともあるような気もする。しかし奥さん然とした彼女の物腰には、かつてのモデルの面影は一カケラもない。私が戸惑っているのもおかまいなく、なれなれしく、

「ストローでこんな夏の帽子編んだんだけど、あなたのお店へまずおいてもらおうと思ったの」

私は「ソラッ来た」と思った。この趣味と実益をかねるというやつが私は大嫌いなのだ。なぜか？趣味と実益の精神こそ、本講の淑女の精神に反することはなはだしいからだ。

およそ淑女、紳士たるにかかわらず、趣味たるものはそのすばらしい高貴な浪費の精神にあるに違いないのである。その趣味たるや、いかに名手上手であろうと、それを強要される方はめいわく至極であることは、昔から通り相場である。旦那の芸を聞かされる熊さん、八っさんの落語の噺にもあるではないか。

だからである。そんなストロー帽なんて編んで自分が納得したら、つくるしりから、団地の焼却炉にでも運んで燃やしてしまうのが淑女の道なのである。おめおめ人様にさずけようなんて気はおこさない方がよいし、人様に売りつけようなんて、何と淑女の道に遠しこと哉、嗚呼。

ところが、こういう淑女はこのごろ、とみに少なくなった。

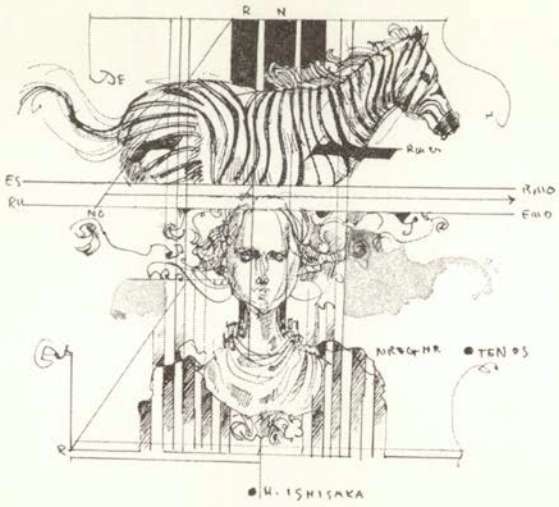
いま私の眼前に頑張っているP子さんの如くである。彼女は赤や青やブルーの麦ワラ帽をとり出した。私は必死の防衛戦である。

「うちは下着屋だから、こういう帽子は、やはり外衣のオーダー屋さんにでももっていった方がいいのじゃないでしょうか？」

「だってビキニはあなたの所にあるでしょう。ビキニと帽子を別々の店で買うより、一所で買えたらいいのにと私はいつも思って、だから、スポーティなのを作ってみたの」

つまり、彼女ははじめから、だれかにおだてられて趣味と実益道にはげんできたのである。世の中には悪いヤツもいるもので、じっとしておれば淑女とまではゆかないまでも、いい「奥サマ」で世間で通るものを、趣味と実益屋にそそのかされたので、淑女道からそれた第一歩なのである。

そしてかわいそうな彼女はご主人の眼をぬすみ、がんぜない子供の手をひいて手芸材料屋に通ったのである。世間ではこの行動を手芸屋に「奉公」したという。奉公



する位だから淑女ではないやね。

そして彼女は赤や青や黄のストローを家に買って帰った。彼女はそのとき何を考えたか?

「これでたのしんで、これでお金をかせいで家計をたすけ、ご主人によろこばれよう……」

しかし、ちょっと待った。

そんなことをして主人がよろこぶはずがない。彼女が趣味と実益道に入信する限り、自分のワイシャツのボタンははずれたままになるに決まっているし、ズボンは象の足みたいにヨレヨレになるに決まっているし、朝も晩も冷めしにインスタントみそ汁になることを知っているので、つまり自分がほったらかされることを知っているので(彼は友人からとっくの昔にそんなことを聞かされているのである)絶対によろこばないのである。そこで彼は反抗する。

この種の被害者のかわいそうな夫連中は、徒党を組んで夜あそびをはじめるというわけだし、家庭に金をもって帰ってこなくなるのである。

そこで趣味と実益道は攻守ところを変えてその道を一路邁進しなければならなくなる悲劇の道をたどる。まことにこの世の中はままならない。

趣味と実益道は、いかに新聞や雑誌にいろいろな紹介や解説記事があっても、それは淑女たる貴女を対象にして書かれた記事でないことを知ってほしいのです。趣味と実益道は、いいかえれば内職道なのですから……。

デパートの手芸用品売場に山のように群がる奥サマ族の風景をご存知ですか?。

社員食堂のような机をもち出しサービスのお茶をのみながらの講習には異様な熱気がただよっている。

一坪〇〇万円の売上げを目標としているガメツイデパート、そこまでサービスさせる趣味婦人の圧力はおよそ淑女のフンイキに遠い風景なのです。

〈次号は名村喜久江さんです〉

□随想□

「一俳優の死亡広告」

森　秀人
〈俳　優〉

昭和二十二年の春。（今から二十年も前のことだ）現在私のマネージャーをしている冬木君（創芸プロ）が国鉄の垂水駅で一人の男性を紹介してくれた。同じ垂水の住人ということで私と彼とは急速に親しくなり、好きな新劇を語り合うようになった。やがて私の創った劇団「垂水文化小劇場」で一緒に仕事をするようになったが、並行して当時学生演劇としては大作だった神戸商大演劇部の、ロマン・ローラン作「愛と死の戯れ」を演出した時も手伝ってくれたし、道化座へも小生作の「開港記」を下げてともに参加した。それから大阪の「新春座」へ移籍して頑張っていたが（その頃、朝日テレビで「部長刑事」のレギュラーを演っていた彼を覚えている人は多いことと思う。写真参照）昨年九月、色々の事情から松竹新喜劇の座員になって、半年も経たないうちに他界してしまったのである。

生前彼にまつわるエピソードも数多い。道化座初期のモダン寺地階の稽古場で、冬の寒い夜、八十円のベレー帽をかぶり、穴の開いた運動靴にジャンパーをまとった彼が、チャルメラの音を遠くに聞いた途端、空腹を訴え出し、共鳴した私と二人で稽古を中止してラーメン屋の屋台に首を突込んだことや、山陰方面の移動公演で、よく磨かれツルツル滑る舞台の幕を引きそこね、片倉製糸と云う会社の若い女工さんばかりの観客のなかへ転落して冷汗をかいていた彼の顔など今でもはっきりと覚えている。又、中座の舞台で、立派な武士を演じていた彼が抜いた刀をもとの鞘に収め損ね逆に入れたため、驚いた彼がとっさに「慌てるでない」と自分にいい聞かせるように名セリフを発したときなど、場内の爆笑はもちろんのこと。当日は新聞記者諸氏も多数見にきていたので、今だに彼の名が出るたびに当時の模様が話題になっている次第である。彼に接した人間で、彼のことを悪くいう人間は一人もいないといっても過言ではない。彼は底抜けのお人好しで、みんなから親しまれ愛された人間だった。

現在、神戸から育ったタレントで、映画、舞台、テレビと活躍している連中も数多いが、今は亡き彼こそ、私にとっては生涯忘れ得ぬ仲間の一人である。

お通夜のときは、角野源平（現関西テレビ編成部長）タレントの谷口完、武周暢、西山嘉孝、阿木五郎、佐々山洋一、久米絢二など昔の道化座の仲間達や、新喜劇から藤山寛美、小島慶四郎君などが馳けつけてくれた。……誰もが知らぬ間に、そっと死んで行く人間の悲哀……ひたすら演劇と女房、子供を愛しつつ、名もなく、貧しく、美しく死んで行った。

彼は、「モロさん」の愛称で呼ばれ、その名は『諸橋幸男』といった。

写真説明
（左端が「部長刑事」出演当時の故諸橋幸男君、右隣が筆者）

鴈治郎飴本舗

本社
神戸湊川神社電停前
電話㉞1242

営業所工場
生田区仲町通4丁目
電話㉞2663

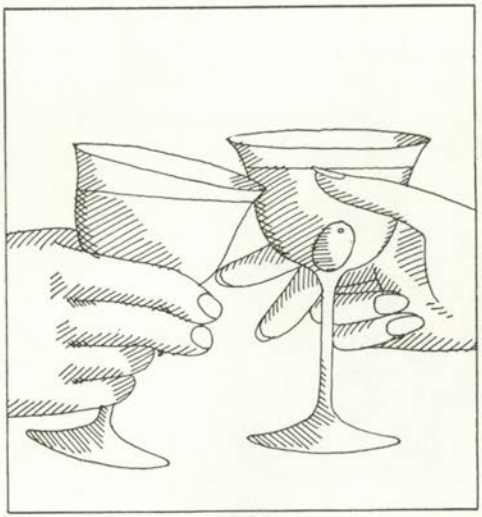
鉄板焼 月
KOBE BEEFの
美味しさを たっぷり！
KOBE IKUTASUJI
〈33〉2509

BAR★ KOBE IKUTASUJI 〈33〉0886
Moon Light
CLUB★ KOBE IKUTASUJI 〈33〉0157

たれが自慢の焼鳥
灘の生一本で京風のおでんを
さんちかへお越しの節は
気軽くご家族連れでどうぞ

花隈
森　本
三宮店　三宮ビル地下名食街
（おでん・焼鳥）　22－7450
花隈店　生田区花隈町
（割烹料亭）　34－8017　35－1355

楽しく　なごやかな
KOBEの憩いの場で
ケエリオー！



club Midori

年中無休・大阪クレジットビュロー取扱いいたします
神戸市生田区中山手通1丁目110
PHONE 〈33〉 5543・7831
坂上 太佳子

SHOPPING

メガネの専門店

神戸眼鏡院

生田区元町３丁目浜側　ＴＥＬ・33—3112

〝第三の美を創る〟と最近よくいわれているものにめがねがある。機能だけでなく、おしゃれの要素が多分に入ってきたというわけ。サングラスもそのうちの一つ。神戸元町三丁目浜側にある「神戸眼鏡院元町店」には、そんなめがねやサングラスがウィンドーにいっぱい。

この店は創業大正15年、めがねの専門店としては老舗である。特に神戸眼鏡院のウィンドーのディスプレーは、季節感にあふれ、街行く人々を楽しませている。

神戸眼鏡院は今年のオリジナルサングラス〝ロイヤルハワイアン・グラス〟でウィンドーはあふれんばかり。この店に来ればたくさんの種類の中から、落ち着いたムードで自分の好みのめがねやサングラスを選ぶことができ、またアフターサービスにも充分気を配っている。写真のロイヤルハワイヤン・グラスは角型、ラウンド型各種あり、二、四〇〇円前後。

DRINKING

スナックバー

ニュースラエス

生田区東門筋山手ロッジ内　ＴＥＬ・39—1215

三宮・東門筋を北から入ってすぐの鳥居前にあるビル山手ロッジを入ると一番奥に「ニュースラエス」がある。同じ東門前で二〇年前から知られる「スラエス」の娘さんのれい子さんと元歌手でおなじみの平野こうじさん夫婦の経営で、さる二月六日に開店したばかり。10人も入るといっぱいになるほどのかわいい店だが、室内装飾はデコラ張りのように安っぽい新建材を使う傾向が多いのにくらべて、壁板はもちろんカウンター、天井、洋酒棚にいたるまで、がっちりと落ち着いた木目模様でクラシックムードも取り入れた装飾でくつろげる。

年配の人にも喜ばれている店。毎日の献立はちがうが、れい子さんの心のこもった手料理でスープ（四〇〇円）ギョーザ（三〇〇円）などが出されるのもうれしい。ビール（二〇〇円）ハイボール（三五〇円）ジンフィズ（二〇〇円）と値段の比較的安いのも人気のモトである。営業時間ＰＭ６・30～ＡＭ12・30

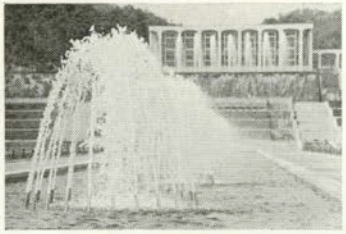
ポケットジャーナル

★水の公園〝須磨離宮〟開園、噴水も登場

源氏物語の昔から、景勝の地と絶賛された須磨に、水の公園〝須磨離宮〟が今年も五月一日開園した。

須磨区東須磨月見山にある同公園は、戦後、宮内庁から神戸市に移管されたもので〝水と緑と眺望の利〟を兼備したこの地を、国際都市神戸の代表的な公園にしようと昭和33年4月、皇太子殿下御成婚記念事業として造成に着手していたもの。

公園のモチーフには滝、カスケード、キャナル、大噴水、その周囲を芝生、花石細工の造形美が取囲む。自然と人工の美が、この公園のようにうまくマッチしているのはわが国でも珍しい。



離宮公園の噴水

一日午後二時から一般公開されたが、三月から十月までは午前九時から午後五時まで。但し、七・八月は午後八時まで。十二月から一月までの冬期は午後四時半まで。入園料は平常大人六十円、小人四十円。夜間大人八十円、小人六十円。

★百円札の両替機お目見え

このほど三菱重工神戸研究所と名古屋機器製作所の共同でビルコイン・チェンジャー（紙幣硬貨両替機）を開発したが、その第一号機が大阪市の国鉄京橋駅にお目見えした。

従来の両替機は、紙幣を所定の置きかたにしないと受けつけなかったが、京橋駅に登場した同機は、紙幣をキチンと伸ばしさえすればすべて受けつけるという画期的なもの。百円札と新旧の百円硬貨、新旧五十円硬貨の五種類を識別することができる。また百円札を入れると五十円硬貨一枚と十円硬貨五枚が出るが、五十円硬貨が不足すると、自動的に十円硬貨が十枚出るようになっている。なお同機は、一度に一万回分の十円硬貨を入れることができるので、係員の手数を軽減することができるなど、多くのすぐれた特徴を持っているし、電気的に材質を見分ける非破壊試験の技術を応用しているため、この頃よく横行しているニセモノは絶対に通用しない。

世界でも初めてというこの機械を製作した神研と名機では、今後更に千円札や一万円札の両替機も製作する予定。なお同機は目下特許出願中。

★長浜光さん「百年のミナト神戸」書展開く

さる4月28日から5月3日まで、神戸そごう6階の文化催し会場で、船場の生んだ異色書道家長浜光さん（西宮市常盤町8の3）の「百年のミナト神戸」書展が開かれた。

この書展は長浜光後援会主催、朝日TV、関西TV毎日TV、読売TV後援の開港百年記念になるもので会場構成は早川良雄氏によるもの。

長浜さんは30年の書道家生活の間、素材を和紙のかわりにレザーを使用するなど毎回新しい素材と取り組仕を続けている人々に。又滋賀県近江学園糸賀園長の著書「この子らを世の光りに」の映神化費用にも贈ることに決定。精薄児（者）に明かるい話題を投げかけました。

近江学園を訪れたボランティアたち

ボランティアをはじめとする人々のご協力も日増しに活発になり三月十九日には滋賀県近江学園、琵琶湖学園その他の施設訪問を行ないました。バス二台に約百五十名の人達が分乗し、施設での説明に耳を傾けました。

まだまだ精薄児（者）に対する施設、協力者も足りない現状です。一人でも多くの人がこの運動に理解と協力してくださるよう本部では希望しております。

神戸市立室内小学校
連絡先 TEL（69）0317・0918

誕生日ありがとう運動

誕生日ありがとう運動は〝精神薄弱児（者）の正しい理解と愛情を〟をモットーに展開してきましたが、多くの方々の善意に支えられて、去る五月八日に二周年を迎えました。愛の輪は日一日とひろがり、二年間に集った献金は一万千二百十五件、百九十五万二千余円となっております。この多くの献金も、七日に行なわれた二周年「記念のつどい」の折にその使途が発表され、各精薄施設に教材、その他を。あるいは、精薄施設で奉

み成果をあげてきたが、今回は、開港百年を記念する神戸の酒造と造船、港をテーマに、素材はステンレスアルミによる意欲的な試みである。

会場にはイカリ、空気塔カジ、航海ランプなどみなとに関する小道具や酒ダルも飾られている。

ステンレスやアルミ板に腐蝕剤を吹きつけ、防腐剤をつけた毛筆で描かれた動的な感じの〝灘五郷〟〝生一本〟〝水中翼船〟〝造船〟〝貿易〟〝元町〟〝兵庫〟など約五十点の作品は人気を呼んだ。

長浜さんは一九六四年ニューヨークのアジア館で個展を開き、そのときの作品のうち「竜」の三曲ビョーブはヒューストン美術館へチェース・マンハッタン銀行の美術室には「層」の四曲ビョーブが、またリチャード・ローロフ夫人（ロックフェラー氏の姉）邸には「泉」がそれぞれとりあげられた。

長浜光書展のオープニング・パーティ

★さんちかにサテスタ九月一日オープンの予定

ラジオ関西では、日本でも初めてという地下街のサテライトスタジオの建設を今、急いでいる。

一日の平均通行人、平日十二万人、日曜十七万人というさんちかタウンは、神戸のショッピングセンターの中心。その中のPRタウンの西南角に目下建設中。第二期工事が完成する九月一日にオープンする予定。

スタジオはガラス面が巾五メートル、高さ二メートル。しかもスタジオの床が六十センチ高く、見やすいようになっている。又、通路を含めた見物席のスペースが広く、約三五〇人がスタジオをみることができる。スタジオの面積も広く商品展示のスペースを広くとることができ、ファッションショウなどの催物にも利用できる。

聴取者参加番組をおりこんで、一日二～三時間の番組をこのさんちかサテスタからナマ放送するという。

さんちかサテスタ工事進行中

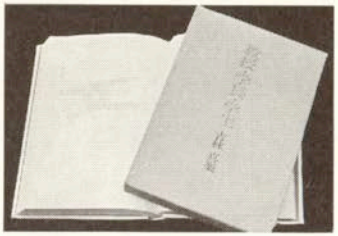
さんちかの話題が一つ増えて、通る人の足をとめることだろう。（写真は工事中のサテライトスタジオ正面。手で示しているところがガラス面・スタジオ内の床の高さ）

★古林喜楽教授の随筆集発刊される

もと神戸大学学長であり現在神戸大学名誉教授の古林喜楽教授の随筆集がこのほど日本評論社から刊行された。

「教授・学長・学生」と題するもので、この本の中に収められた随筆は、時にふれ、折にふれて博士が書き記していたもの。〝神戸っ子〟に載ったいくつかを含めて、大半は朝日新聞、毎日新聞、エコノミスト誌読売新聞、日本経済新聞等に掲載されたものである。

「父との出会い」を始め、数々の感動的な随筆が、博士の公私にわたる活動と、その人となりを思わせるにふさわしい。



■百店会だより■

★百店会に、五月から新しいお店が加わりました。子供用品の専門店〝ファミリア〟（元町通一丁目）です。ベビー用品なら外国製品まで揃っていて、〝ファミリア〟に行けば安心というママが多い。思わず手に取ってみたくなるような、かわいらしいベビー用品、子供服がお店いっぱい。センター街のお店も今秋十月には開店の予定です。

★元町バザー、神戸シャツに続いて、婦人・紳士靴の〝ヨシオカ〟、家具の店〝永田良介商店〟、婦人・紳士服飾でおなじみの〝セリザワ〟の三店が、東京白木屋に進出。六月二日オープンします。

東京に神戸センスのさわやかな風が吹きぬけることでしょう。

★〝オリエンタル・ホテル〟では六月二十五日九時半より「結婚ゼミナール」を開講します。婚約中のお二人はもとより、仲人役の方はじめ、式に参列するすべての方々を対象に、神式、教会式の模擬結婚式、模擬披露宴をモデルを使って挙行し、知識を会得してもらおうというもの。スピーチから、花の知識まで結婚に関することに強くなることはうけあい。費用は、受講料、模擬披露宴のお食事代を含めて一人二千五百円。お申し込みはオリエンタル・ホテルへ。TEL（33）8111

★TOKYO—KOBE を結んで「ミナト神戸おしゃれフェアー」が、五月十二日から十七日まで、東京池袋の西武百貨店七階催物会場で開催された。参加の店は、神戸のお店二十二店で、百店会のお店〝芸夢〟〝スギヤ〟〝セリザワ〟〝ちんがら屋〟〝ファミリア〟〝モロゾフ〟〝ユーハイム〟〝ドンク〟〝コスモポリタン〟〝ヒロタ〟〝ゴンチャロフ〟〝本高砂屋〟〝亀の井亀井堂本家〟〝マスヤ〟〝マキシン〟〝ムラタ〟の十六店も加わっての大デモンストレーション。このところ東京はちょっとしたKOBE ブームの感。江戸っ子にずいぶんうけたフェアーでした。

さし絵は「神戸っ子」のセカンドカバーを担当してくださっている津高和一氏。教授の隠れた一面をのぞいて思わずニタリとする人もあるかと思う。一読に値する珠玉の随筆集である。＝日本評論社発行、八〇〇円

★神戸のザ・ガードマン

テレビで〝ザ・ガードマン〟のさっそうとした姿におなじみのファンは多い。チョッとテレビとちがうところは司法権のないところだが神戸のザ・ガードマンを紹介しよう。

三月十五日から開業している「神戸ガードマン」（神戸市葺合区御幸通一丁目六興進ビル内TEL㉓五〇二六、社長栗坂さとし）がそれ。メンバーは30人位で、関西空手実業団空手連盟の関西大会で団体2位の成績をとったタノモシキ男性ばかり。出身は警察、自衛隊、消防などで武道有段者がそろっている。

張り切る神戸ガードマン

仕事は、警備、保護と調査業務それにともなうものすべて。たとえば、催物の警備。倉庫、ビル、港湾関係の警備。現金や貴金属の護送など。今までにはジェミニ七号を朝日新聞が高島屋で展示したとき神戸港からアメリカへ帰すまでの警備にあたったそうだ。

この密度の濃い警備によって市民の財産や生命の保護にあたりたいとハリキッている。

お値段は一人、一日三千円が相場とか。企業の合理化のために守衛さんをやとわずガードマンを使う人もあるそうだ「テレビのガードマンのカッコよさとはうってかわった、もっと地道な、忍耐力のいる仕事です」といっている。

花時計

神戸カーニバルを市民祭にしよう!!

神戸開港百年祭の前夜祭として、神戸カーニバルが実現した。主催＝神戸市、後援＝毎日新聞社

想像をはるかに越える華やかな祭典になった。神戸市民の祭りへの郷愁がこんなに大きいものであるとは思わなかった。

物凄いエネルギーである――市民が久しぶりに熱狂した、爽快な市民祭であった。

神戸開港百年祭の意義を深くかみしめて心から喜んで参加された人々に拍手を送りたい。

ここに提案したいことは、この市民参加中心の神戸カーニバルを毎年実施して神戸市民の祭りにしようということだ。

神戸らしい祭りになるには、いろいろな工夫なり経験の積み重ねが必要だと思う。

――この育て方が大切なのだが、神戸っ子〟の苦手なところでもある。新らしさに飛びつくばかりではあまりにも能がなさすぎる。すこしはじっくり育てる努力もしなければならない。

神戸開港百年を記念して誕生した祭典である。神戸カーニバルを市民の祭りとして永遠につづけたいものである。

五月十五日記（Y）

■〈神戸っ子の会〉会員募集

★「神戸っ子の会」（E・F・S）とは？

①「神戸っ子」の読者の親睦を深める集いです。

②神戸の文化は「神戸っ子」から生まれます。

③郷土の歴史とよい伝統を受け継ぎ、さらに高く発展させていく会です。

④政治・経済・文化という3本の柱をひとつに結ぶ会です。

⑤現代っ子のセンスと教養を高める会です。

⑥絵画・音楽・文学等のすべての文化領域に、新しい才能を発揮する広場です。

★「神戸っ子の会」の会員の特典は？

①毎月「神戸っ子」をお届けします。

②「神戸っ子」編集部で主催するさまざまな催しに、自由に参加することができます。

たとえば次のような催しです。

イ、一流作家、学者、芸能人講師を迎えての講演会。

ロ、「神戸っ子」特選名画鑑賞会ハ、美術展覧会見学、古寺巡りなどを目的とするバス旅行。

ニ、神戸のうまいものを食べる会。

③神戸百店会でお買物をされる方にいろいろ便宜をはかります。

無料ご招待の催しもありますが催し物によってはその都度実費をいただく場合もございます。

★「神戸っ子の会」に入会するには？

申込用紙（神戸っ子編集部へお申込みください）に所定の事項を記入のうえ、入会金二百円と会費三百円を、神戸っ子編集部へ納めていただきさえすればよいのです。美しい会員証をさしあげます。その翌月からは毎月三百円を納めていただきます。

蜂蜜と
りんご酢の
味がいっぱい
鮨の又平

神戸三宮生田ノ社ノ西
鮨の又平
電話・三の宮㉝ 0935

抽象画（アンフィルノ）のある
料亭 赤坂

みどりの風を
楽しむ頃は
青い畳の上に
限ります。

豊魚季を迎え瀬戸の鯛は今が日本一!!
鯛づくし料理を……三〇人、五〇人、八〇人、大歓迎
▲赤坂名物……神戸肉を焼いて
野菜をたっぷり
食事付 一、三〇〇円
舌つづみが絶えません!!

閑静、
美観、
岩風呂、
お泊りも出来ます

神戸中山手四
TEL ㉒ 7836・7846

異人館物語

連載第五話——5

耽溺の詩人モラエス

小山牧子　え・石阪春生

第五章

明治四十五年の夏、居留地の商館のポーチには、赤、緑、黄色と原色の色彩もあざやかな日覆いが張られ、ギラギラとした日ざしを受けとめていた。

通りに面した西洋館のコロニアル・スタイルのベランダでは、縮みのシャツに半ズボンの西洋人が怠惰な様子で籐椅子にからだを投げだし、口にくわえたパイプからは、煙の輪がぼくんぼくんと宙にあがっていた。

風がなく、日かげに憩っていてもじっとりと肌が汗ばんでゆく海岸通りの午後——。ベランダに坐り、ぼんやりと通りを見下ろしていた人々は、一人の西洋人が、放心したようにゆっくりと日ざしの中を歩いてゆくのを見て不審に思った。

大きなからだを、悲しみがいっぱいつまった袋のように引きずり、男は暑い日ざしの中を帽子もかぶらず歩いてゆく。

「ポルトガル総領事——」

日陰に憩っている異人たちは一様につぶやき、ふたたび自分たちだけの想念にひたってゆく。

★あらすじ

神戸駐在ポルトガル総領事ヴェンセスラオ・デ・ソーザ・モラエスは、祖国の軍艦が神戸港に寄港したのを機に全乗組員を料亭に招いた。その時モラエスの胸をよぎるのは、観艦式の折の苦い思い出——祖国ポルトガルの軍艦の姿がなかったことだった。もはや国威の衰退はあきらかだった。そして、モラエスは腐敗した本国からの左遷命令を機に、長い間あこがれていた日本、その神戸の片隅で残りの人生を暮そうと移住を決意したのであった。

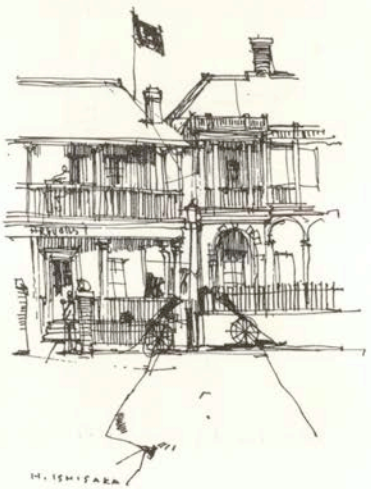
やがて、愁いをふくんだ面ざしの美しい愛妾ヨネを得たモラエスは、過去の愛の不信感から完全に解放され、はじめての人生のよろこびを知ったと思うのだった。病床にふせりがちなヨネもまた、モラエスの胸に顔をうずめて、このやさしく孤独な異国の人モラエスとともに、この街の片隅でいつまでも生きていたいと思うのだった。

歩いているのは、モラエスであった。その日、モラエスは、逆らうことができない運命の非情さに押しひしがれ、少しの間すべての暗い出来事から逃がれているために、戸外によろめきだしたのであった。

明治四十五年はモラエスにとって不運な年であった。祖国ポルトガルの革命さわぎ。モラエスが最も敬愛する明治天皇の崩御。そしてきょう、モラエスの愛妾ヨネは死の床にあった。医者はすでにサジを投げ、あとはただ死が訪れる瞬間を待つしかない状態にあったのである。

その前年、祖国ポルトガルをさわがしていた政治紛争は、国王と皇太子の暗殺という血なまぐさい事件を経て共和党の勝利で終った。

モラエスは、天皇親政のもとに国民がすべて心を合わせて国を発展させ、見る間に西欧諸国と肩を並べるようになった日本の政治体制に驚嘆し、それに引きかえ祖国の革命さわぎを苦々しく思っていた。



それに祖国の政変は、極東の日本で領事をつとめるモラエスにとっても無関係ではなかった。共和政府樹立と同時に、総領事館への本国からの送金がばったりと途絶えてしまったのである。

政府内部の機構改革によって、新しい行政官の手ぬかりから領事館の所属する省を明確にすることができず、宙ぶらりんになった領事館は、どの省からも見捨てられたかたちになったためである。

モラエスは、苦境に立たされた。しかし、祖国の盾であることをほこる軍人として身をたててきた由緒あるポルトガルの旧家の末裔モラエスは、祖国の名誉のためにも領事館閉鎖にふみきることはできなかった。モラエスは悩んだ。そして、私財を投げだし、領事館の業務を続けていったのである。

モラエスの周囲の友人や部下が彼の身を案じ、本国政府に送金を要請する電報や書信を送りつづけたが、共和政府は、はっきりした態度を表明せず、一年近くが過ぎた。そして最後に、本国政府は日本総領事館の所属をマカオ政庁と決め、マカオから送金させることにしたのであるが、その時すでにモラエスは、自分の努力のむなしさに絶望し、総領事としての仕事に情熱を失っていた。

祖国と祖国のための仕事に情熱を失ったモラエスは、日本人になりきることを望みヨネとの生活に耽溺した。

「私も少しは日本人らしくなったかね？」

友人をつかまえるたびごとに、そのお世辞にも日本人らしいとはいえない天狗のように鼻の高い赤ら顔をつきだしてたずねるモラエス。

そのモラエスにとって、ヨネの危篤は悲しみの限界をこえるものであった。

「オヨネシャン、ビョーキ、ダイジョービ?」

ヨネの身を案じてしぶるモラエスを引っぱるようにして、ヨネは妙にはしゃぎながら先に立ってどんどん歩いた。

さんさんと明るい陽光が降り注ぎ、それでいて湿気の多い日であったから、ヨネはめずらしく汗をかいた。長く寝込んでいたヨネがいたいたしく、モラエスは何度も須磨寺にゆくのを止めにして引返そうと云って立ち止ったものであったが——。

「ええんじョ。わたし、行きたいんじョ」

ヨネは聞かなかった。

須磨寺から敦盛塚へ。二人は千年も二千年も生きつづけてきたと思われる曲りくねった太い幹をもつ松の老樹の陰にすっぽりと包まれて何度も休んだ。

ぎっしりと繁り合い、二人をとり囲んでいる青葉がむんむんと匂いたち、胸の底に沈んでいる官能のほのめき

モラエスの足は魂を失ったもののようにゆっくりと海へむかった。

赤レンガを敷きつめた通りは乾ききり、そのむこうに船の帆桁や煙突が林立している。やがて、真夏の太陽に灼かれ、ギラギラと輝いている海が、彼の視野いっぱいに広がった。海は、彼の目の中でふくらみ、暗く塗りつぶされた心から一滴の涙をさそいだそうとする。

モラエスは、ヨネと共に過ごした耽溺の日々の中で、落日のようにあかあかと彼の心に残照を残している最後の一日を忘れることができない。それは、モラエスとヨネにとって最後の楽しい思い出となった一日である。

二ヵ月前、梅雨がじめじめと人と風物を閉じ込めている六月。しかし、その日はめずらしく晴れわたった一日であった。

その日、ふさぎ込んでいるモラエスの気持を引立てようと、ヨネは須磨寺への散策を思いついた。

呼びおこすようなひと時。飼いなれた猫のように従順に身を寄せているヨネのモラエスを見上げる目に、一途な光りが宿っていた。そしてヨネは、須磨寺でも敦盛塚でも石の段にうずくまるようにして懸命に祈るのだった。

敦盛塚に近い茶店で休んだ時、二人はその店で買った水密桃を食べた。日頃、食の進まぬヨネが、その時はおいしいと云って三つも四つも食べ、残りを風呂敷に包んで持って帰った。

家に帰りつき、着がえをしている最中に最近ではなれっこになっている心臓発作にヨネは見舞われた。その日の発作はなかなかおさまらず、次第に苦しみを増し、日頃のつつしみも忘れて痛ましい呻き声をあげ、唇の色さえも失ってゆくヨネのために、高名な医師が何人も呼ばれた。しかし、時はすでに医者の力ではどうにもならない状態にあった。

それから二ヵ月、ヨネはついに立つことができず、瀕死の床に臥している。八月の陽光にギラギラとかがやく海面を凝視しながらモラエスはふと思う。あの時、ヨネはなにを懸命に祈ったのであろうか——と。

たぶん、神仏にむきあい自分の命乞いをしたのではなかったろうか。ヨネの祈っていた姿。水密桃を食べながら「おいしいわァ……」と云った時の目のかがやき。そして残った水密桃を風呂敷に包んでいた時の手の動き。そこには、生きることへのひたむきな執着があったのではなかったか。

「コイ・タード（可哀そうに）……」

モラエスは、つぶやいた。

ヨネはいま、モラエスの財力も力も及ばないところで苦しみ、死の訪れる瞬間を待っているのだ。

ゆっくりとモラエスは踵を返した。運命に従順な男のあきらめきった姿勢が彼をこの上なく重厚に見せている。

彼はそのままヨネの臥せっている加納町の私邸にむかって歩いていった。

加納町の家では、ヨネの郷里から呼びよせたヨネの姉ユキが采配をふるって働いている。そして、いまごろは、たぶんモラエスがいなくなったことを大仰にさわぎたてているだろう。

その夜、ヨネはモラエスの腕に抱かれ息を引取った。

「モラエスさん、ありがと……」

冷えてゆくヨネの唇がかすかに動いた時、モラエスはたしかにその言葉を聞いたと思った。

なきがらとなったヨネと二人、モラエスは一室に閉じこもり、美しかったヨネの顔に死斑が現われるのも意に介さず、ヨネの胸に顔を伏せ、つきぬ未練を語りかけ、果てもない別離の時を過ごすのだった。やがてぴったりと閉ざされたふすまのすきまから、押殺した男の慟哭がもれだした。

からだも大きく総領事という要職にある男が、恰好かまわず幼い子供のように愛した女の死を悲しむ姿は、通夜の人びとの言葉を失わせた。

やがて長い別れの時が過ぎ、一日で髪の毛が真っ白になるほど老け込んだモラエスは、ヨネのなきがらから一束の髪の毛を切取って部屋を出た。納棺の時間が遅れたことに人びとはやきもきしていたのである。

姉のユキの手によってヨネの死装束がほどこされた。装束は、ヨネの遺言どおり切髪紋服姿に日ごろ愛用していた縮珍の帯。丹念に化粧されたヨネの顔は死斑も死臭も消え、眠っているように美しかった。

モラエスの胸に、ヨネの最後の顔がしっかりと焼きついた。やがて、白木の棺に釘を打つ時、モラエスの半白になったゆたかな頬ヒゲを、驚くほど大きな涙がつたい落ちるのを人びとは見た。

福本ヨネ、行年三十八才。ヨネのなきがらは、春日野の墓地でダビに付され、遺骨は姉ユキの胸に抱かれ郷里の徳島へ帰っていった。

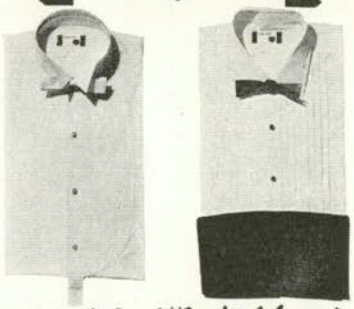
〈次号につづく〉

ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目　TEL ㉞ 7290

KOBE SHIRT



よろず御構衣縫上處

神戸シヤツ

大丸前　TEL 33・2168

あらゆる体型にフィットする
スポーティなタッチ
さあ！オーダーシャツで
いこう！

MEN'S SHOP センシュウ

紳士洋品の店

千秋屋

元町4　TEL ㉞ 6959

Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

オシャレ洋品の店

フナキヤ

元町3　TEL〈33〉3617

高級紳士服専門店

神戸テーラー

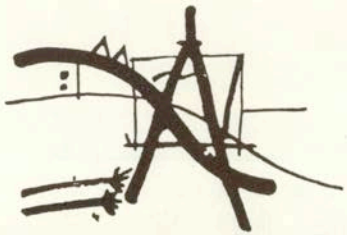
さんちかメンズタウン　TEL㊴0388
生田区北長狭通２(阪急西口)　TEL㉝2817・3173

世界の品々は
サノヘでお選
びください。

サノヘ

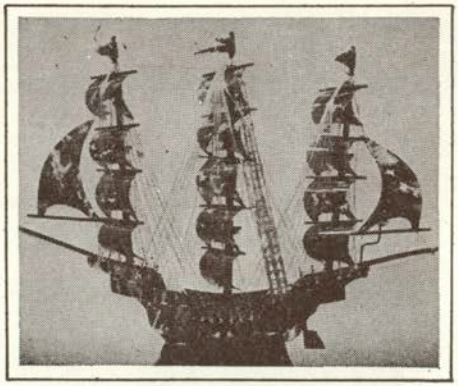
元町２丁目
㉝４７０７～８

額椽絵画・洋画材料
室内工芸品



末積製額

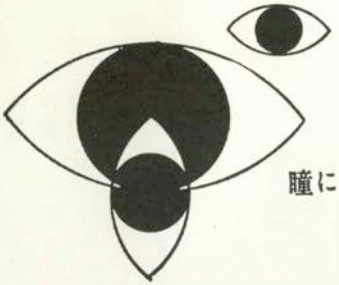
三宮・大丸北
トア・ロード
㉝1309・6234



センスあふれる
べっ甲専門店

太田鼈甲店

元町１丁目　TEL㉝６１９５



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所
神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内　TEL（22）8161・8361

高級きものとおび
しみぬき・活洗専門店

平野
つるや本店
兵庫区神田町125
（家庭裁判所前東1丁）
TEL㉞6932

The Cosmopolitan
Valentine F. Morozoff

コスモポリタン
チョコレート・キャンデー

神戸本社	神戸市生田区三宮町1丁目170	電話 33−5304
神戸直売店	神戸市生田区三宮町1丁目	電話 33−1217
大阪堺筋店	大阪市東区淡路町2丁目	電話231−6979
大阪心斎橋店	大阪市南区安堂寺橋通4丁目	電話251−4182
東京銀座店	東京都中央区銀座8丁目	電話571−2303
東京新宿店	東京都新宿区角筈1丁目 新宿ステーションビル地下2階	電話352−2436
東京有楽ビル店	東京都千代田区有楽町 有楽ビル	電話213−2821

ご贈答に風味豊かなカステーラ
長崎堂本店

本店	＝大橋町5大五ビル	(61) 0553−4
新開地店	＝松竹座前	(56) 2423
元町店	＝元町6	(34) 4130
さんちかスイーツタウン		(36) 3625

大上鞄店・いなみ

元町通1丁目 TEL 33・3962
さんちかメンズタウン TEL 39・4627

創業明治二十五年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

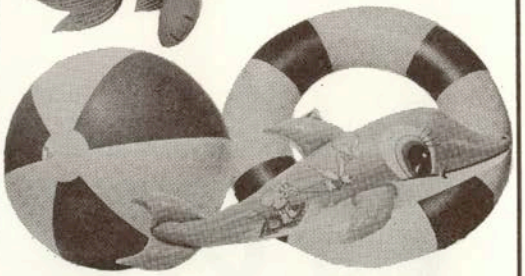
神戸　三宮センター街
TEL ㊴ 0256
確実正札　完全冷暖房
静かに品選びの出来る店

創作ハンドバッグ
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町
ACCESSORIES
イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416

水遊び
用品が
揃いました



おもちゃの
カメヤ

元町3丁目 ㉝0090
元町1丁目 ㊴0768
三宮センター街 ㉝4969
さんちかタウン ㊴4045

おすし
てんぷら
榮蒲

本店 三宮町二・朝日会館前
TEL ㉝ 5 7 7 2
（毎週月曜日休み）
支店 さんちか味ののれん街
TEL ㊴ 5 2 3 3

営業時間
A. M. 11.30～P. M. 9

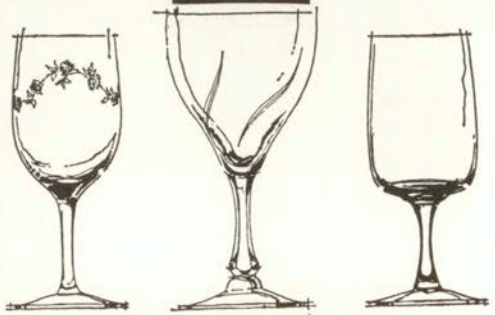
スタンド・グラムール
Glamour
新谷悦子
柴田千鶴子
生田筋・岸ビル地階
TEL 33－4637

洋酒の店
OK
小川深雪
阪急西口下る京町筋
TEL〈39〉1413

酒徒を泣かせる
コクのある酒
灘の生一本

清酒
大黒正宗

CLUB
蕗



清水よし子
生田区下山手通２丁目ＴＥＬ〈39〉1515

洋酒の店キャンテイ
Chianti
榊　晴夫　TEL(39)３０６０
213KITANAGASA-DORI　IKUTA-KU　KOBE

YB
CLUB
Young Bell
松田真理子
生田・中山手２丁目89・　TEL 33—3052